

あけぼの杉

初代同窓会会長 藤田啓介博士筆

藤田学園同窓会

住 所 豊明市沓掛町田楽ヶ窪
1 番地 98
発行人 藤田学園同窓会
発行日 令和 5 年 12 月 25 日



2023藤田学園ホームカミングデー懇親会



目 次

P. 2	藤田学園同窓会会長ご挨拶	P. 12	1 月：画像診断コンテスト 「画論30th The Best Image」で最優秀賞・ Young Innovator Award賞を受賞
P. 5	学校法人藤田学園理事長ご挨拶		2023年3月国家試験結果
P. 6	藤田医科大学学長ご挨拶	P. 13	2 月：医学部創設50周年記念式典
P. 7	藤田医科大学病院病院長ご挨拶	P. 14	3 月：2022年度 卒業証書・学位授与式
P. 8	学園の1年	P. 15	4 月：2023年度 入学式
	9 月：藤田学園 東京へ進出！ フジタ羽田プロジェクト 施設名称が決定 大学院医学研究科 病院経営学・管理学専攻[専門職大学院]を設置	P. 16	5 月：藤田医科大学病院 開院50周年
P. 9	10月：2022年豊明校地防災訓練 全学生の“防災士”取得に向けて 大学教職員が防災士養成講座を受講	P. 17	6 月：保健衛生学部 新学部長挨拶
P. 10	11月：手術支援ロボット「hinotori」を用いた 世界初の胃がん切除術を実施 藤田医科大学病院 リトルエンジェルたちの 写真展と交流会を開催	P. 18	7 月：ばんだね病院 いよいよ新A棟オープン
P. 11	12月：藤田医科大学東京 先端医療研究センター 2023年秋開設を発表	P. 19	8 月：OPEN CAMPUS 2023
		P. 20～21	恩師からのお便り
		P. 22	同窓会からのお知らせ
		P. 23	総会議事録
		P. 24	2024年度入学試験スケジュール



4年ぶりのホームカミングデー

一般社団法人藤田学園同窓会 会長
松山 裕宇 (医学部6回生)

卒業生の皆様におかれましては、ご多忙な日々をお過ごしのことと拝察いたします。

さて、新型コロナウイルスの5類引き下げ以降も、臨床の現場は今尚、新型コロナウイルスにインフルエンザ流行、ワクチン接種と混乱の波が過ぎ去ったとはとても言えない状況です。一方、藤田学園は2020年2月19日のダイヤモンドプリンセス号乗員乗客受入れ以降も歩みを止めることなく、2023年10月2日に東京先端医療研究センターのグランドオープンを始め、豊明校地、ばんたね病院、七栗記念病院、岡崎医療センターのそれぞれが輝かしい発展を続けております。

そうした発展を皆様にもご紹介させて頂こうと、今年は、フジタEXPO2023に合わせて、10月28日に「卒業生への学園見学」の機会を設け、そして4年ぶりにホテルグランコート名古屋7階ザ・グランコートにおきまして、2023藤田学園ホームカミングデー懇親会を開催いたしました。

学園からは、湯澤由紀夫学長、小野雄一郎学園長、齋藤邦明医療科学部長、堀江裕保健衛生学部長、堀口明彦ばんたね病院長、園田茂七栗記念病院長、鈴木克侍岡崎医療センター病院長方のご出席を頂きました。そして、卒業生には、251名(看護7名、専学13名、短大49名、藤衛会132名、藤医会50名)のご参加を頂きました。

今回はひさしぶりの開催であったため、まさに「どうするホームカミングデー！」と議論を重ねる中、結局は、できるだけご参加いただく皆様に懇親を深めるお時

間をたっぷりとれるように、各所のご挨拶や卒後周年記念者表彰、私ども同窓会の挨拶を極力簡易化いたしました。会の進行に際しては、久しぶりの開催ということもあり不手際があったと存じますが、何卒お許しください。

卒後50年表彰代表：専学6回生 前田一郎様、衛技2回生 落合潤一様、卒後40周年表彰代表：短技15回生 安倍淳様、卒後30年表彰代表：衛技22回生 小山久恵様、おめでとうございます。

今回、大変嬉しいことに、私と同期の医学部6回生が卒後40周年記念にあたり、10名以上が集合しました。誠にありがとうございました。

来年は、今年よりもっと多数の皆様の参加ができるように、アナウンスをさらに積極的におこない、より熟成したホームカミングデーにして参ります。引き続きお力添えよろしくお願いいたします。

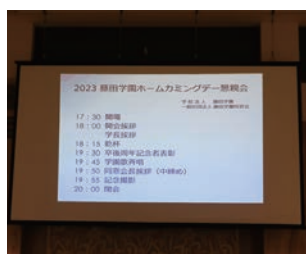
来年のホームカミングデーは
令和6年10月26日です

集え！ ホームカミングデー

卒業生で大学をもり立てましょう！！

1974年卒、1984年卒、1994年卒の皆様、奮ってご参加下さい。

令和5年11月吉日









藤田の先端医療技術を世界に

学校法人藤田学園 理事長
星長 清隆

藤田学園同窓会の皆さまにはお変わりなくご健勝のことと拝察いたします。理事長の星長清隆でございます。理事長を拝命し5年が経過しました。この5年間で藤田学園は大きく変わっています。豊明校地、ばんたね病院、七栗記念病院における増改築、岡崎医療センターの開院、加えて2023年10月には東京の羽田空港に先端医療研究センターを開院いたしました。近くにお越しの際は、是非お立ち寄りいただき、ご覧いただければ幸いです。

さて、2023年の本学の活動についてご報告いたします。2月に医学部創立50周年記念式典を開催いたしました。記念式典には菅義偉前内閣総理大臣にご講演いただき、2020年2月に、当時、官房長官として政府対応の陣頭指揮を執られる中「ダイヤモンド・プリンセス号」で起こった新型コロナ集団感染についての当時の状況や、乗客乗員128名を開院前の岡崎医療センターで受け入れた本学の対応に感謝のお言葉をいただきました。3月には岡崎医療センター開院3周年記念報告会・講演会を開催し、加藤勝信前厚生労働大臣にご講演をいただきました。加藤先生には米国CDC(疾病対策センター)をモデルにした日本版CDCの立ち上げ構想や、医療DXの重要性などについてお話いただきました。8月にはばんたね病院新A棟が竣工し、オペ室の増室と透析センターの新設など、地域の中核を担う病院としての機能が整ってまいりました。また、6月には中国の上海交通大学、8月にはシンガポール国立大学、11月には中国の復旦大学とMOUを締結し、アジアを代表する大学との交流を進めています。2024年2月には災害にも対応できるやや大型のドクターヘリの配備を予定しており、既に工事が始まっております太陽光パネルの設置による病院の強靱化施策と合わせて、中部地区全体の医療を担う基幹災害拠点病院としての環境整備を確実に進めています。

最後に、10月2日にオープンいたしました藤田医科大学東京先端医療研究センターに

ついてご紹介させていただきます。9月30日に菅義偉前内閣総理大臣や萩生田光一自由民主党政務調査会長、キヤノン株式会社 御手洗富士夫代表取締役会長兼社長らをご来賓にお迎えして、開所記念式典ならびに内覧会を盛会に行う事ができました。もともとこの施設の構想は3年ほど前の新型コロナウイルス感染症の第1波が収まったばかりの2020年の夏から始まりました。国土交通省のプロジェクトである羽田イノベーションシティ計画の最終段階である医療機関とホテルの一体型施設として開院準備を進めていましたが、東京都内の某私立大学がコロナ禍で急遽、撤退を決められたため、以前より国際医療センターを立ち上げ、海外からのインバウンド患者をわが国で最多数受け入れている本学にお声が掛かりました。

その後は、多くの企業様のご協力もあり、再生医療やゲノム診療のみならず、活動長寿として高齢者に対しての食事指導や運動、睡眠指導などの科学的な生活支援をも視野に入れた現在の運用指針に辿りつきました。対象は日本人、外国人と限定せず、航空機を利用して遠方より来られる方々と考えておりますが、私たちの発想に賛同してくださる全ての方をお受けしたいと思っています。

藤田がいよいよ東京に進出したとの声もありますが、これまでの藤田学園の方針どおり、日本、そして世界の患者さんのために最善の医療を提供していけるよう、職員一同邁進してまいります。



交通広場から



挑む

藤田医科大学 学長
湯澤 由紀夫

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

藤田医科大学は今年で創立55年を迎えました。故藤田啓介先生のご意思を継承し、建学の精神「独創一理」を胸に大学運営をしております。

教育では、各学部の国家資格は、看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士はもちろんのこと、医学部の合格率も国公立医科大学で9位と全資格で好成績となっています。大学教育改革の取り組みを評価する「私立大学等改革支援事業」は2022年度も選定されています。4領域全てに選定されたのは全国で8大学のみであり、教育の質を向上させる本学の取り組みが評価されたものと考えております。

コロナ禍も収束し、海外の大学との交流も活発に始まっています。シンガポール国立大学や中国の上海交通大学や復旦大学、台湾の高雄医学大学や中国医薬大学との新たなMOU締結や、これまでの協定校との職員、学生の相互交流も再始動しました。特に、シンガポール国立大学とは、海底ケーブルを使用した5000キロ離れた距離での遠隔手術実証実験を10月に実施し、実験は成功裏に終えております。

研究では、「地域中核・特色ある研究大学整備事業の推進」に採択されました。精神・神経病態研究拠点の形成として、トップレベルの双方向性トランスレーショナル研究を推進しています。また橋渡し研究支援機関など他の研究事業についても積極的に取り組んでいます。

本学の新たな柱である「社会貢献」の取り組みも2年目に入りました。防災士資格の全学生取得も順調に進んでおり、10月の全学防災訓練では、職員と学生が共同で帰宅困難者受入れやトリアージでの活動を行いました。2024年2月には愛知県で2機目のドクターヘリも配備される予定となっていますので、本学を中心とした広い地域での防災の取り組みをさらに充実させていきます。

医療DX（デジタルトランスフォーメーション）も着実に進めています。厚生労働省の「医療DX2030」に基づく医療情報の効果的な2次利用とシステムコストの削減を目標にしており、本学の4病院で蓄積している約150万症例のデータを世界標準で活用する基盤形成に取り組んでいます。具体的にはフェーズ1として医用文字情報の国際標準規格「HL7FHIR」などによる連携基盤の整備や、データセキュリティでの暗号化やブロック

チェーンの検証、そしてフェーズ2として、東京先端医療研究センターの開院に合わせ、将来的な海外とのデータ連携や災害対策を目指しシステムをクラウドで構築しました。

デジタル庁や千葉工大、IBMやAWS（アマゾンウェブサービス）とも連携しており、日本医療のデジタル化を牽引できるようスピード感をもって進めています。

故藤田啓介総長は50年前の大学病院開院時より先駆的にコンピュータ導入をされていました。現在に引き継ぐ私どもも、医療のデジタル化をはじめ、充実した教育、先端医療、社会貢献など、藤田医科大学がさらに発展するよう邁進をいたす所存でございますので、同窓会の皆様には引き続きご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



防災訓練での講評のようす



左から千葉工業大学 伊藤穰一学長、湯澤学長



藤田医科大学病院の近況と将来展望

藤田医科大学病院 病院長
白木 良一

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学病院に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は本年5月に開院50周年を迎えました。1973年に小さな町の大学病院としてスタートした当院が、今では40以上の診療科と国内最多の病床数1,376床を有し、特定機能病院として高度医療を推進する施設となりました。一方、地域医療の砦となる基幹病院としての使命も担っており、先端的な医療と研究で海外からも注目される存在でもあります。これもひとえに、同窓会の皆様をはじめ、関係各位のご支援と教職員の努力あつてのことと心より感謝申し上げます。

3年半近く続いた新型コロナウイルス感染症も、5月より感染症法の5類に変更されたことにより新しい段階に入りました。新型コロナウイルス感染症対策では、地域の医療圏を含め災害医療に準じた体制を構築して参りました。また、自然災害や大地震など有事の際の基幹災害拠点病院として、医療救護活動の要となる役割を果たすべく、ドクターヘリの導入（2024年2月運航開始予定）や太陽光発電等のインフラ整備を含めた“病院強靱化”にも取り組んでいます。

当院では全国に先駆けて2008年より手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、現在ではロボット手術が可能なるほぼすべての領域に対応できる体制が整っています。今年3月には国内初となる単孔式手術ロボットである「ダヴィンチSP（Single Port）」を導入し、第1例目の手術も無事施行され順調に手術件数を伸ばしています。他にも、「hinotori」や「hugo」を含め国内最多6台の胸腹部領域、並びに他領域にも手術支援ロボットが稼働しています。

がんゲノム医療の普及に対応すべく、今年9月にはがんゲノム診療科を開設しました。血液による検査システム（リキッドバイオプシー）の構築にも着手していますが、多くのがんゲノム情報をデータベース化し、院内で迅速にゲノム解析できる体制を整備することにより、個別化医療のさらなる進展を目指しています。また、がんの診断と治療を一体化した放射線治療法「セラノスティクス」の実現に向け、当院敷地内に「サイクロترون・セラノスティクスセンター」を現在建設中で、2024年4月の稼働を予定しています。

2024年度に施行される『医師の働き方改革』にも様々な手法で準備を進めています。病院全体でデジタル技術の利活用による医療DXや、AI診断・IoT等を活用した



1972年_昭和47年



2023年 全景

スマートホスピタル構想を推進することで、医療の質と患者さんの利便性を向上させるとともに、広域の病診連携の拡充、医療現場における職員の作業軽減、感染症対策など、社会の課題解決に寄与したいと考えています。また、タスクシフトの1つとして、当院では2021年より検体や医薬品など院内物資を搬送するサービスロボットの実証実験を重ねてきました。今年7月にサービスロボット「FORRO（フォーロ）」のトライアル運用を開始し、3台のロボットが24時間体制で稼働しています。病院での常時運転では全国初となる「エレベーターでの人とロボットの相乗り」も実現しており、今後は実サービスに近い作業を通じて、さらなる活用を推進していきます。

教育面においては、大学病院として高い臨床力を持ち、“藤田スピリット”を継承する医療人の育成にも継続的に努めています。今後も「チームFUJITA」一丸となり、藤田ならではの“やさしさの医療”と、安全で質の高い医療を提供できる人材を養成していくことで、地域社会および医学・医療の進歩に貢献してまいります。

同窓会の皆様におかれましては、何卒引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

藤田学園 東京へ進出! フジタ羽田プロジェクト 施設名称が決定

藤田学園が、羽田空港隣接の大規模複合施設「HANEDA INNOVATION CITY」内に開設する施設全体の名称が、「藤田医科大学東京 先端医療研究センター」に決定しました。これは大学・研究機能等を含む施設全体を指すものであり、診療を担う医療施設名は「藤田医科大学 羽田クリニック」となります。同センターでは、「健康長寿」「低侵襲治療」をテーマに高精度健診や再生医療、遺伝子診断、リハビリなどの最新医療と研究を展開。現在、2023年秋の開所に向け、準備を進めています。

今後もフジタ羽田プロジェクトの詳細をお知らせしていきます！

※写真は現時点のイメージです

◆施設名称

藤田医科大学東京 先端医療研究センター
FUJITA MEDICAL INNOVATION CENTER TOKYO

◆登録医療機関名

藤田医科大学 羽田クリニック
FUJITA HEALTH UNIVERSITY HANEDA CLINIC

◆英文略称

エフ ミ ッ ク ト ウ キ ョ ウ
FMIC Tokyo



1Fメインエントランス



1F検診EVホール



2F放射線フロア廊下



リハビリテーションフロア

HANEDA INNOVATION CITY

羽田空港から1駅の天空橋駅に直結する大型複合施設。日本文化と最新テクノロジーの融合をテーマに、研究開発機関やショッピングモール、ホテル、イベント施設など多彩な施設が2020年夏より順次オープンし、羽田空港の新名所となっています。

大学院医学研究科 病院経営学・管理学専攻[専門職大学院]を設置

藤田医科大学大学院医学研究科は2023年4月、病院経営学の専門職大学院としては日本で唯一となる病院経営幹部のための病院経営専門職大学院「病院経営学・管理学専攻(専門職大学院)」を新たに開設します。本件は、2022年3月に設置を文部科学省に申請。大学設置・学校法人審議会での審議を経て、8月31日、文部科学大臣より正式に認可をいただきました。

本専攻では、「病院経営学・管理学修士[専門職](MHHA:Master of Hospital & Health Administration)」の学位取得が可能となります。



大学院医学研究科
岩田 仲生 研究科長

医師主導の病院経営を実践できる専門職人材を育成

新しい時代の病院長を育成するために、リーダーシップや財務会計、病院建築、国際認証等の病院経営学や、人事労務、医療安全、医薬品管理等の病院管理学、医療制度や医療産業等の医療政策学による高度専門知識と、病院経営演習による実践科目で構成される専門カリキュラムにより、地域社会に対する深い洞察と国際標準の医療の質を見据えた健全な病院経営を実現できる課題発見能力・分析能力・課題解決能力を有する専門職人材を育成します。

【概要】

名 称: 藤田医科大学大学院医学研究科 病院経営学・管理学専攻(専門職大学院)

開 設: 2023年4月(予定)

修業年限: 1年6カ月 募集人員: 10名程度

2022年豊明校地防災訓練

10月1日、豊明校地で南海トラフ地震を想定した防災訓練が行われ、教職員と学生合わせて約840名が参加しました。新型コロナの影響で、本格的な訓練を実施するのは3年振り。今回は、2030年に向けた「その時、いちばん動ける藤田学園へ」のVISIONを前進させるべく防災について「3つの柱」を掲げ、災害時の情報伝達や医療提供体制などを実践しながら確認しました。

また当日は、政府の大規模地震時医療活動訓練(DMAT訓練)も行われ、藤田医科大学病院と岡崎医療センターに全国各地からDMAT隊が集結。隊員らは両病院を拠点に、知多・三河エリアの医療支援に出動しました。

2022年度は、①地域社会への貢献、②基幹災害拠点病院としての使命、③広域災害を見据えた備え——を「3つの柱」とし、状況把握や情報伝達等の通常訓練に加えて、防災テント・簡易トイレの設営、医療避難所の運営、隣県の大学との広域連携など、さまざまな訓練を行いました。



防災訓練の様子は動画でも
ご覧いただけます!



Check here

3つの柱

地域社会への貢献

基幹災害拠点病院としての使命

広域災害を見据えた備え

- 防災テント・簡易トイレの設営
- 医療避難所の開設・運営
- トリアージ訓練
- 負傷者の受け入れ
- DMAT政府訓練
- 三重大学、浜松医科大学との3大学合同広域連携訓練

全学生の“防災士”取得に向けて 大学教職員が防災士養成講座を受講

藤田医科大学では、災害時の対応を強化し、地域の被災者を支える人材を養成すべく、来年度の入学生より学生全員が卒業時に日本防災士機構が認証する民間資格「防災士」の取得をめざす取り組みを開始します。学生全員が防災士の取得をめざすのは、全国でも初めて。本取り組みのトライアルとして、10月29・30日の2日間、湯澤由紀夫学長をはじめとする大学教職員が本学主催の防災士養成講座を受講しました。

講座では、名古屋大学 福和伸夫名誉教授が自然災害発生のメカニズムなどを解説。またワークショップでは、医学部健康科学 若月徹准教授が講師となり、「災害医療とこころのケア」をテーマに避難所への被災者受け入れをシミュレーションしました。講座の最終日には防災士資格取得試験が実施され、71名が合格しました。合格者は救命救急講習を受講し、日本防災士機構へ申請することで防災士資格を取得します。

12月からは在学生を対象にした防災士養成講座が順次始まります。防災士の教育を通して、大災害発生時には「自分たちが社会を支える」という意識をもつ学生の育成をめざします。

防災士とは

認定特定非営利活動法人日本防災士機構が“自助”“共助”“協働”を原則として、社会のさまざまな場で防災力を高める活動を行うための十分な意識と一定の知識・技能の習得をしたことを認証する民間資格。近年災害が多発していることで関心が高まっています。



手術支援ロボット「hinotori」を用いた 世界初の胃がん切除術を実施



宇山教授がコックピットから操作

藤田医科大学病院総合消化器外科は11月2日、国産手術支援ロボット「hinotori」を用いた世界初の胃がん切除術を施行。患者さんは70代の女性で、術中特にトラブル等なく終了しています。術後の経過は順調で、食事摂取が安定するまでに若干時間を要しましたが、術後第25病日に退院しました。また、11月15日には60代の女性に世界2例目の胃がん切除術を施行しました。こちらも術後の経過は順調で、通常のクリニカルパス通り、術後第10病日に退院しています。

hinotoriによるロボット支援手術は、2020年8月に泌尿器科領域において薬機承認され、同年9月に保険適用となりました。消化器外科領域においては、2022年10月に婦人科領域とともに薬機承認。今年12月から保険適用になりました。

1例目を執刀した先端ロボット・内視鏡手術学の宇山一朗教授は、「既存の手術支援ロボットと操作性に遜色なく、順調に進められた。泌尿器科領域に加え、消化器外科および婦人科領域でもhinotoriによる保険診療が始まることで、間口が広がり、より多くの患者さんに貢献できると考える」と手応えを述べ、2例目を執刀した総合消化器外科の須田康一主任教授も「外科医・麻酔科医・看護師・臨床工学技士等、多職種がチーム一丸となって取り組んできた。より多くの胃がん患者さんにロボット支援手術のアドバンテージを少しでも早く享受していただけるよう、今後も本手術を推進していきたい」とさらなる進化を強調しました。



hinotoriによる胃がん切除術の様子

藤田医科大学病院 リトルエンジェルたちの 写真展と交流会を開催



写真展はNICUを卒業した子どもと家族の交流会「リトルエンジェルの会」と、NICU・GCUが協力し、初めて開催しました



ツリーには、医師・看護師・助産師らが一人ひとり書いたメッセージも飾られました

小さな命を応援したいー。11月17日の世界早産児デーに合わせて、同17～19日の3日間、NICU（新生児集中治療管理室）を卒業した子どもたちの成長をつづった写真展が藤田医科大学病院B棟ホスピタルパサージュで開催されました。会場では18組の子どもたちの生まれた当時と成長した現在の写真を、ママたちからのメッセージとともに展示。子どもたちの生きる力、ママたちの不安や喜び、深い愛情を伝える展示内容に涙する人も多くみられました。



参加者全員で「ハイ、チーズ!」

リトルエンジェルの会

写真展最終日の11月19日には、3年振りに対面で家族交流会を同会場で開催。「こんなに大きくなったんだ」「元気いっぱいだね」など、久しぶりの再会と成長を喜ぶ姿があちらこちらで見られました。医師や看護師らによるショーや演奏などもあり、笑顔あふれるひとときとなりました。



看護学科の杉浦将人講師がマジックを披露



医師や看護師らによる演奏も

2022年 12月

藤田医科大学東京 先端医療研究センター 2023年秋開設を発表



藤田学園は2023年秋、羽田空港に隣接する複合施設「HANEDA INNOVATION CITY」(東京都大田区)内に、「藤田医科大学 羽田クリニック」を併設した次世代医療・研究の拠点「藤田医科大学東京 先端医療研究センター (FMIC TOKYO)」を開設することを発表しました。

12月7日に東京で行われた記者会見には、在京・在名のテレビ局・新聞社計14社が出席。あいさつに立った星長清隆理事長は、「次世代の医療に挑戦する施設。日本の玄関口である羽田から、先端医療や精密健診、活動長寿など、日本の高度な医療を世界に発信していきたい」と抱負を述べました。また、概要説明には藤田医科大学東京 先端医療研究センター準備室の榛村重人室長が登壇。「企業のラボを併設し、医療の提供と研究を並行して行う。クリニックでは中国語や英語のほか多言語に対応できる通訳を配備し、国内外の需要に応じていくとともに、自由診療を含めた幅広い治療の選択肢を示すことで、人々の健康に寄与していく」と今後の展開を話しました。



▲ 左から記者会見を行う
榛村室長、星長理事長、
羽田プロジェクト準備室の
野々山尚毅事業部長

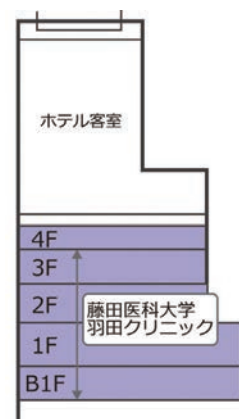


多くの報道関係者が
参加しました



※赤枠内に入居

センターは、「HANEDA INNOVATION CITY」ZONE Aに設置。地下1階から3階が藤田医科大学羽田クリニック、4階には医療関連企業との産学連携による研究室や細胞ハブが入ります(画像提供:羽田みらい開発株式会社)



- 4F ショーケース、研究室
ダイダグ株式会社、株式会社日立ハイテク
株式会社メディカロイド、ロート製薬株式会社
FMIC TOKYO本部、藤田医科大学事務局、セミナー室
- 3F 整形外科、形成外科
エグゼクティブ健診
- 2F 放射線センター
【画像診断】MRI(3T)、立位CT、CT、一般X線、骨密度検査
【核医学】PET-CT、乳腺・脳PET
- 1F メインエントランス
リハビリセンター、デイサージュリー
- B1F 高度生殖医療(婦人科)、眼科

事業概要

【先端医療】

- ・再生医療
- ・がんゲノム医療
- ・高度生殖医療
- ・先端リハビリテーション

【精密健診／検診】

- ・PET-CT、脳・乳房PET、立位CT等を用いた高度な画像診断
- ・腸内細菌叢の解析により受診者個々の疾病リスクを分析する腸内フローラ健診
- ・鎮静下内視鏡とAI診断機器を併用
- ・乳房専用PET-CTを用いたストレスフリーな無痛健診

【活動長寿】

- ・生活や健康を大きく変えるロボット・最新機器を用いた先端リハビリテーション

【研究室、ショーケース】

- ・企業との協業による細胞ハブや共同研究施設を設置
- ・次世代の検体検査機器構想などを展示
- ・CT・MRI・AI内視鏡等を使用している様子などを公開
- ・国産手術支援ロボットhinotoriの遠隔操作が実施できる体制を整備

画像診断コンテスト

「画論30th The Best Image」で最優秀賞・Young Innovator Award賞を受賞



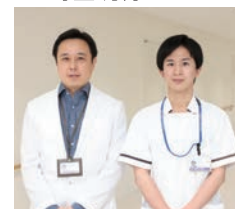
2022年12月18日に東京国際フォーラムで行われた同賞の表彰式にて

ことが高く評価されました。同コンテストで最優秀賞を受賞するの、昨年に続き4回目となります。

また、Aquilion Precision部門では、放射線部の片方明男係長、鍼時貞診療放射線技師と脳卒中科 長谷部朗子助教による「右IC-PC動脈瘤、右IC-SHA動脈瘤」の画像がYoung Innovator Award賞を受賞。こちらは、撮影時におけるノイズ除去のためポジショニング新手法が、CT検査の未来を示すものとして注目されました。

キヤノンメディカルシステムズ株式会社が主催する画像診断コンテスト「画論30th The Best Image」で、藤田医科大学病院が応募した2つの画像が、CTに関連する166症例の中から最優秀賞Young Innovator Award賞を受賞しました。

CT1～160列部門で最優秀賞に輝いたのは、放射線部の高橋司 診療放射線技師と脳神経外科学の中江俊介講師が作成した「難治性てんかん」の画像。高橋技師らは、難治性てんかんの焦点部位を特定する定位的頭蓋内脳波(SEEG)の電極位置評価を目的に3DCTAとMRIの3D合成画像を作成。これにより高難度であった島回切除における主要血管との位置関係や電極の同定が可能になり、焦点切除術に有用な情報を得られる



最優秀賞を受賞した中江講師(左)と高橋技師(右)

2023年3月 国家試験結果

学部・学校	学科	資格名	区分	受験者	合格者	合格率%	全国平均
医学部	医学科	医師 (第117回)	新卒	113名	111名	98.2%	94.9%
			既卒	5名	3名	60.0%	55.2%
			計	118名	114名	96.6%	91.6%
医療科学部	臨床検査学科	臨床検査技師	(第69回)	106名	101名	95.3%	77.6%
	放射線学科	診療放射線技師	(第75回)	91名	86名	94.5%	87.0%
	臨床工学科	臨床工学技士	(第36回)	24名	24名	100%	85.4%
保健衛生学部	看護学科	看護師	(第112回)	128名	128名	100%	90.8%
		保健師	(第109回)	20名	20名	100%	93.7%
	リハビリテーション学科理学療法専攻	理学療法士	(第58回)	67名	67名	100%	87.4%
	リハビリテーション学科作業療法専攻	作業療法士	(第58回)	45名	44名	97.8%	83.8%

(注) 医療科学部・保健衛生学部の受験者数は、既卒者を含みません。

医学部創設50周年記念式典

2022年4月に50周年を迎えた本学医学部の創設記念式典が2月19日、名古屋マリオットアソシアホテルで執り行われました。コロナ禍のため予定を約1年延期しての開催となりましたが、菅義偉前首相をはじめ、鴨下一郎元環境大臣、大村秀章愛知県知事、松尾清一東海国立大学機構長、小川彰日本私立医科大学協会長らのご臨席のもと、テレビ・新聞も計13社が取材するなど盛況な式典となりました。

式典には、医学部の卒業生をはじめ、全国の大学関係者、医療関係者ら326名が参加しました。第一部の式辞に登壇した星長清隆理事長は、学園の歩みを紹介しながら、「教育・研究・医療・福祉・社会貢献に尽力し、世界に誇れる藤田学園となるようあらゆる努力を惜しまない」と全力で社会の課題に挑み続けることを宣言。続いて岩田仲生医学部長が医学部の過去・現在・未来をテーマに、学園設立にかけた藤田啓介総長の思いや今も受け継がれる基礎研究重視の文化、さらに医学部がめざす「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師」を養成する人材育成システムなどを語りました。

第二部では、湯澤由紀夫学長が「世界あるいは日本の課題を自分ごととして捉え、研究、教育、医療を通じて社会に貢献していきたい」と力強くあいさつ。その後、菅前首相と網膜再生医療の第一人者である株式会社ビジョンケアの高橋政代代表取締役社長（元理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー／眼科医）による特別講演が行われました。



新たなステージへ向けて医学部改革を進めていくと語る岩田医学部長

高橋政代先生と菅義偉前首相が特別講演に登壇



自家 iPS細胞を用いた網膜再生医療の未来について展望する高橋先生



菅前首相は、グリーンエネルギーとデジタルが日本の成長戦略の鍵になると講じました

高橋先生は特別講演で、2014年に世界で初めて自家iPS細胞由来の網膜細胞移植に成功した際の秘話や、同研究の進捗と展望、さらに保険医療を含めた日本の医療が抱える課題に言及しました。そして「細胞を作るだけでなく、医療を作る、再生医療ができる仕組みを作る、これからはそういことが必要になる。羽田の藤田医科大学東京 先端医療研究センターに参画し、藤田とともに新しい医療を作っていきたい」と力を込めました。

続いて登壇した菅前首相は、2020年2月に「ダイヤモンド・プリンセス」号で起こった新型コロナ集団感染について、「当時は医療関係者も国民も今とは比べ物にならないほど慎重であり、船で発生した患者の入院先を割り振ることが極めて困難だった」と回顧。菅前首相は当時、官房長官として政府対応の陣頭指揮を執られており、乗客乗員128名を岡崎医療センターで受け入れた本学に「厳しい状況の中で大きな決断をしていただいたことに心から敬意を表し、感謝申しあげる」とのお言葉をいただきました。

History

医学部は、学校法人藤田学園の設立から8年後の1972年4月、名古屋保健衛生大学医学部として開学しました。第一期の入学生は137名で、この半世紀の間に約4600名の卒業生を輩出し、うち99.6%が医師国家試験に合格しています。



1972年4月に行われた第一期入学式であいさつする藤田啓介総長



医学部1号館（現在の大学1号館）は1975年に完成しました



1975年当時のポリクリ（ローテーション実習）の様子

2022年度 卒業証書・学位記授与式



3月12日に藤田医科大学卒業証書・学位記授与式ならびに大学院学位記授与式が執り行われ、674名の学生が新たな一歩を踏み出しました。今年は3年ぶりにフジタホール2000への入場制限を撤廃し、保護者も卒業生の晴れ舞台を見守りました。

式では、卒業生代表に卒業証書・学位記が手渡され、続いて理事長賞、学長賞、克己復禮賞、特別賞が授与されました。湯澤由紀夫学長は6月に開催された THEアジア大学サミットでの学生ボランティアの活躍を称賛するとともに、最前線で立ち向かってきた新型コロナウイルス感染症に対する取り組みや羽田

に今秋開院する先端医療研究センターを例に挙げ、「誰もトライしたことのない未知の境地を切り拓いていくのが藤田学園のチャレンジ精神。その誇りを糧に社会に貢献していただくことを期待している」と式辞を贈りました。答辞として、卒業生代表3名が学生生活での学びや感謝、今後の抱負を述べました。

式の最後には、コロナ禍で学生生活を送ることになった卒業生たちへ、教職員らの心温まるメッセージを込めた動画を上映。旅立つ卒業生たちへエールを贈りました。



特大サイズの卒業証書のフォスポットを今年初めて設置



2022年度 卒業生および修了生の人数

医学部	
医学科	113名
医療科学部	
医療検査学科	130名
放射線学科	91名
保健衛生学部	
看護学科	128名
リハビリテーション学科	118名
(理学療法専攻73名・作業療法専攻45名)	
大学院医学研究科	
博士課程	24名
論文提出による博士	4名
修士課程	3名
大学院保健学研究科	
博士後期課程	10名
修士課程	53名

ベトナム人看護学生に特別賞

今回の授与式では、日本の看護師免許取得をめざし、ハノイ医科大学から本学に入学した保健衛生学部看護学科4年のグエン ティ フォンさんに特別賞が贈られました。フォンさんは、同大学在学中の約5年前に本学が取り組む看護師教育支援プロジェクトに応募。日本語の猛特訓を重ね、本学入学試験を突破、2019年4月より学内の宿舎で生活しながら勉学に励んできました。

3月24日にあった看護師国家試験の合格発表では、学部でその時を待ったフォンさん。合格の知らせに涙ぐみながら「日本語を覚えるのは思った以上に大変でしたが、先生方が親身に支えてくれました。卒業後は、藤田医科大学病院で働き、高度な看護を身につけて国際的に活躍できる看護師になりたい」と喜びを語りました。



星長清隆理事長はフォンさんの努力を称え、特別賞を贈りました

2023年度 入学式

4月9日、2023年度の入学式がフジタホール2000で執り行われ、新入生783名が本学での新たな一歩を踏み出しました。

式典では、各学部長と新入生が対面し、代表学生が壇上で宣誓と署名を行いました。湯澤由紀夫学長は昨年6月に開催されたTHEアジア大学サミットでの学生ボランティアの外国人对応を称え、「多様な考えを持つ人と交流できる海外での生活は貴重な経験であり、生涯を支え合う友人をみつける上で絶好の機会になるので、チャレンジしてほしい。これから藤田学園の夢を共に実現する仲間として成長していただくことを期待している」と式辞を述べ、星長清隆理事長は「藤田は教職員が一体となって日本で初めてのことに挑戦し続けている。世界からも高く評価される大学になることを皆さんとめざしていきたい」とエールを贈りました。



式辞を述べる湯澤学長



管弦楽部による演奏で入学生をお出迎え

2023年度 新入生数	
医学部 120名	大学院 130名
医療科学部 247名	医学研究科 博士課程 46名
医療検査学科 154名	修士課程 4名
放射線学科 93名	病院経営学・管理学専攻 専門職学位課程 16名
保健衛生学部 286名	保健学研究科 博士後期課程 16名
看護学科 158名	修士課程 48名
リハビリテーション学科 128名 (理学療法専攻:73名 作業療法専攻:55名)	
計	783名

2023年度 入学記念演奏会・講演会

中部電力株式会社の勝野哲代表取締役会長を講師に迎えた入学記念講演会が4月10日、フジタホール2000で開催されました。勝野会長は、本学と進めている災害時の医療継続に向けた太陽光パネルの設置、医療系在宅センシングの研究などにふれながら、カーボンニュートラルの達成やヘルスケアに関する同社の取り組みを紹介。また、企業や社会人の役割は「未来を予想し、研究開発や技術開発を通じて社会経済の発展に寄与していくこと」と述べ、「自分の技術技能を深掘りする、自分の専門以外の領域に興味を持つ、広く人と交わり見聞を広めるの3点が大切だ」と説きました。

講演会の前には、京都府立医科大学医学部卒業のバイオリニスト・石上真由子さんと作曲家でピアニストの加藤昌則さんがラヴェルの「ツィガーヌ」など計5曲を演奏。美しい調べで新入生を歓迎しました。



石上さんと加藤さん



中部電力株式会社の勝野会長が講演



広報部の視点で藤田の魅力を伝えるシリーズ企画「発見伝」。
今号から年4回のペースで、
さまざまな話題を取り上げていきます。

藤田医科大学病院 開院50周年



開設日の前日、1973年5月28日に行われた開院式。
故・藤田啓介総長らのテープカットによって、藤田医科大学病院の歴史が始まりました

藤田医科大学病院は、2023年5月29日に開院50周年を迎えます。
荒地を整備するところから始まった小さな町の大学病院は、今や国内最多の病床数を有し、
地域住民の健康を支えるだけでなく、先端的な医療と研究で海外からも注目される存在になりました。
今号では藤田医科大学病院の軌跡を開院当時の写真とデータで振り返りつつ、発展をけん引してきた
星長清隆理事長(第9代病院長)、湯澤由紀夫学長(第10代病院長)、白木良一第11代病院長の3人に、
印象に残るエピソードや未来への構想を語っていただきました。



1982年ごろの藤田医科大学病院

病院建設へ

1970年10月 8日	敷入れ式・建設着工
1972年 5月10日	定礎式
10月	大学病院2号棟完成
11月 1日	愛知県知事より開設許可
1973年 3月	大学病院1号棟完成
5月28日	開院式
5月29日	開設日
6月 7日	診療開始
1980年 4月	大学病院3号棟一部完成

病院名の変遷

大学名の改称に伴い、
病院名も3度、変わりました。

藤田学園名古屋保健衛生大学病院
(1973年5月) ▼
藤田学園保健衛生大学病院
(1984年6月) ▼
藤田保健衛生大学病院
(1991年4月) ▼
藤田医科大学病院[現在]
(2018年10月)

開院当初



理学療法室と作業療法室を備えたリハビリテーションセンター



手術室は、一般、救急用、X線撮影装置付きなど計15室を備えていました



特別病室には和室とテーブルセットが配されています



臨床系共同利用研究室まで含めると約5,400㎡の面積を有した臨床研究検査部



外来の内科系診察室。パソコンなどもなく、すっきりとしています



時代を感じさせる日本人形や小物が置かれたナースセンター

コンピュータ導入

コンピュータがまだ一般的ではなかった1970年代初頭。藤田医科大学病院(当時、藤田学園名古屋保健衛生大学病院)では、開院時からコンピュータによる外来患者登録および医事会計システムづくりを積極的に進め、1974年9月に本格稼働させています。その後、1980年1月には医師が直接入力を行う外来オーダーリングシステムも導入。当時から時流を見通して、IT化に取り組んでいたことがうかがえます。



コンピュータ室

≡ 1975年-1980年代 ≡

病院の理念を込めた玄関陶壁

藤田啓介総長は、大学病院の建設にあたり、以下の「定礎のことば」を礎石の中に納め、病院理念としました。1977年に完成した病院玄関正面柱の陶壁には、この病院理念がエスペラント語に翻訳され、さらに東京藝術大学の吉田左源次教授によってアラビア文字に図案化されて刻まれました。

定礎のことば

本病院完成のあかつきは、この可憐な花の咲き匂う「病める人、弱きものの乗る船」の行く手に、やさしい星がきらめき、美しい月が輝くように、またメディカルおよびパラメディカルのメッカとして、人類社会が未来史の最大課題としてかかげる教育と社会福祉との戦いに、その革新的機能を発揮するように、ひたすら祈念し、このことばとともに、一医とは弱者に対する無限の同情なり―の自戒のことばを礎石の中に納めて、永く後世の記念とする。

1972年5月10日 学校法人藤田学園理事長 藤田啓介



3本の正面柱のうち、中央にあるのが病院理念を刻んだ陶壁。
理念に込められたやさしさの医療の実践は、藤田医科大学病院のDNAとして大切に受け継がれています



保健衛生学部 新学部長挨拶



藤田医科大学教授
保健衛生学部長

堀江 裕

(医学博士、経営学修士)

2023年6月より、保健衛生学部長に着任した堀江裕です。各教員・職員、学生の皆様、藤田学園を様々な形でご支援いただいている関係者の皆様には、どうぞよろしくお願いいたします。3号館4階にある学部長室は、在室時は原則としてドアを開放しておきます。皆様には、ご用があっても、なくても、お気軽にお立ち寄りください。

藤田医科大学保健衛生学部は、1,376床、40診療科数を誇り、質の高い医療を提供する藤田医科大学病院をはじめとする4つの教育病院で実習を積み、高い実践力を身につけることができる教育環境が注目され、熱心な素晴らしい学生が入学、学習しています。

大学の魅力、学生の頑張り、そして各教員の指導の結果、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の国家試験合格率は、全国平均を大きく超えています。国家試験全員合格の実績が継続されていくよう、学生をしっかりサポートしていきます。

藤田医科大学は、何事につけ、独創一理、常に日本、世界の最先端を目指して努力を続ける大学だと実感しています。強みを磨き、輝かせる進取の気性を保健衛生学部も共有し、2024年度にはリハビリテーション学科のカリキュラム改革を行います。去る2023年5月には、「先進理学療法コース」、「先進作業療法コース」を設ける指定学校の承認変更の申請をしたところです。

また、学生の高い向学心に応えられるよう、海外大学との連携によって世界の医療に触れ、豊かな国際性と広い視野が身につくように、グローバル化への取り組みを強化していきます。

広範な医療ニーズに応え、社会課題の解決につながる研究の充実も課題です。幅広い学内の研究への参加、積極的な研究費獲得や論文提出、産官学協働のプロジェクトの締結・推進などを通じて、研究成果の充実と研究環境の向上に努めていきます。

出生数が80万人を下回り、亡くなる方が160万人に迫る少子高齢社会。医療的ケアの必要な子どもから地域包括ケアの推進を通じた健康寿命の延伸まで、医療、とりわけ看護、リハビリテーションへの期待は多種多様です。卒業生がチーム医療の頼もしい担い手として活躍する保健衛生学部を目指してまいります。皆様のご支援をお願いいたします。

2023年7月

ばんだね病院 いよいよ新A棟オープン

地下1階から4階建て、延べ床面積4022.06㎡の新A棟がついにオープンします。8月10日に引き渡し完了し、8月20日には開棟式典を執り行います。8月下旬から順次、下記のエリアが稼働する予定です。

今号では、新A棟の各フロアを紹介します。

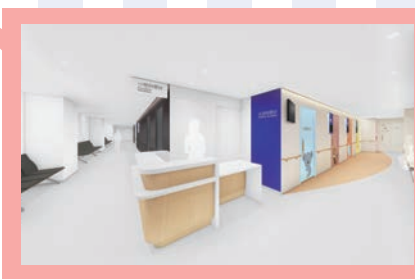


4F 血液浄化センター



感染症の患者さんにも対応可能な陰圧の隔離透析室を含む、21床のベッドを新たに整備。通常の血液透析に加え、オンライン血液透析濾過と腹膜透析を実施します。世界各国が参加している観察研究に、愛知県で唯一参加します。

3F 小児科外来



診察室を1室増設。少しでも子どもがリラックスして診療を受けられるように、診察室の扉には動物のイラストを施し、明るく・親しみやすい環境になっています。

2F 手術室



バイオクリーンルームを含む7室を整備。整形外科領域の手術支援ロボット「ROSA」に続いて外科領域の「ダビンチXi」も導入される予定です。

1F 救急外来



これまでの救急外来のレイアウトを刷新し、診察室4室、中央処置室8床と初療室2床を配置。以前はウォークインから入室していた陰圧室に、搬送からそのまま入室できるようになりました。

B1F 放射線エリア

E棟にある放射線エリアが新A棟に拡張され、新たにCTを1台追加予定。リニアックの導入も計画されています。

2023年 8月

OPEN CAMPUS 2023

オープンキャンパス2023報告

本年は、「来校型」をメインに8月のオープンキャンパスを開催し、多くの方に本学の魅力を伝えました。

▶ 来場者数：医学部約470名、医療科学部・保健衛生学部約2,300名

医学部〈8/12(土) 9:30-16:00開催〉

医学部のオープンキャンパスは、昨年同様、来場とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。「医学部長による学部紹介」「在学生トーク」「卒業生トーク」「入試説明」「保護者向け説明」のほか、来場者限定のコンテンツとして病院・研究室見学ツアーや模擬講義、体験企画などを実施しました。

見学ツアーでは、本学が誇る病院施設と研究室を巡り、参加者は、最新機器の多さ、研究力の高さに感心していました。また、Teacher of the year賞に殿堂入りしている医学部生命科学 野村隆士教育教授による模擬講義や「救命体験 (BLS)」、「面接徹底体験講座」を実施し、多くの方に本学の特色や学びを体感していただきました。



キャンパス見学ツアー



救命体験 (BLS)



病院見学ツアー (リハビリテーションセンター)



面接徹底体験講座



個別進学相談

医療科学部/保健衛生学部〈8/5(土)・6(日) 9:30-14:30開催〉

医療科学部/保健衛生学部のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大前の規模に戻し、大学と各学科の紹介、保護者向け説明会などさまざまな企画を実施しました。本学の防災士教育を体験する初企画では、参加者は災害用段ボールベッドや簡易トイレの組み立てに挑戦しました。名鉄前後駅からのスクールバスの運行やコロナ禍で中止していた学生食堂も4年ぶりに復活し、参加者は本学の学生生活を体験しました。

各学科では、実際の学びを体感できる体験型プログラムや模擬講義、病院見学、キャンパスツアー、個別進学相談会などを行い、参加者は、教員や学生の説明に真剣な表情で聴き入っていました。

医療科学部/保健衛生学部では、9月以降も来校型キャンパス見学会などの高校生向けのイベントを実施する予定です。



医療検査学科



放射線学科



看護学科



リハビリテーション学科

恩師からのお便り (順不同)

藤田学園での半世紀



藤田医科大学
医学部病理診断学
講座客員教授
豊田地域医療センター
臨床検査科
黒田 誠

私は1972年に医学部一回生として入学しました。福岡県北九州市小倉北区の出身で初めて愛知県にやってきました。内科の開業医の長男でしたので、医師免許を取得したら小倉に戻る予定でした。当時ののどかな豊明で学生生活を満喫しました。そこで卒業にあたり、地元に戻るには最低限、学位取得が必要であることを知りました。そこで、当初は全く考えていなかった病理学の大学院に進むことを決めました。学生時代からお世話になった渡邊裕教授に門戸を開いていただき、当時の助教授であられた笠原正男先生に熱心にご指導をいただき何とか学位を取得させていただきました。その後は、いわゆる御礼奉公を少しだけしてから北九州に戻るつもりでした。

しかしながら、故藤田啓介総長から「留学して世界を見てきなさい」という天命が下り、2年間米国フロリダ大学のシャンプス教育病院に留学して米国流の診断病理学の原点を体験して帰国しました。それが藤田医科大学病院での病理部門の設立につながり、病理部門の責任者を拝命して日本流の病理診断に米国流の病理診断を取り入れて、アレンジをして独自の体系を模索してきました。2001年には臨床の部門として独立して現在の病理診断学科の教授を拝命いたしました。

その後は定年まで病理学会の全国区理事として、病理診断科の標榜、病理診断科の創設を実現させることができました。ちょうど定年の年に藤田医科大学岡崎医療センター創設計画が持ち上がり、創設メンバーとして特命教授を拝命し、岡崎医療センターの創設に参加させていただきました。

2023年の3月末でその使命も終了して、現在は公益財団法人豊田地域医療センターに勤務をいたしております。半世紀の藤田学園での人生で本当に沢山の皆様にお世話になりました。紙面をお借りして深く感謝とお礼を申し上げます。現在、私は藤医会（医学部同窓会）第6代会長を拝命して5期目に入っております。学園同窓会の皆様との円滑な交流につとめ、学園との橋渡しに尽力をするとともに、西日本及び全国の私立医科大学同窓会と、交流、親睦を深め、また愛知県私立大学の同窓会とも、交流、親睦を深めて卒業生の皆様、学園に貢献できればと頑張っております。

藤田学園は飛躍をさらに継続していくことになるでしょう。卒業生の皆様におかれましては藤田学園の卒業生であることを誇りに思い、今後も母校を支援していただけたら幸甚に存じます。

半世紀にわたりありがとうございました。

藤田学園を退職して



日本福祉大学
看護学部 老年看護学
教授
長砂 順子

2023年3月をもって無事定年退職をいたしました。大学生活を含めると44年間という長きにわたりご指導いただきました諸先生方、そして共に臨床・教育現場で支え合った教職員の皆様あってのことだと感じております。現在、再就職先で実習病院の確保に奔走しております。ただ、うれしいことに現役時代に共に勤務した医師が病院長に就任されていたり、実習先の指導看護師が藤田での勤務経験者であったりと、多くの場所で身近に藤田を感じられる幸せ

があることに感謝しつつ、学生教育に従事しています。臨床ではマネジメントに関わり、定年までの7年間教育に携わってきたことを活かし、現在は2つの科目に関わっております。学生の違いに迷いながらも、前進あるのみと思い更なる試行錯誤を重ねています。これができるのも、臨床と教育の経験を有している強みだと実感しております。藤田からは離れましたが、母校の益々のご発展を祈念しております。

恩師の教えに感謝



藤田医科大学
名誉教授
(名古屋衛生技術短期大学11回生)
川井 薫

私は、2023年3月末で43年間お世話になった、藤田学園を定年退職しました。在籍中は多くの教職員の方々に、ご指導ご鞭撻を賜り、心から感謝申し上げます。

在籍中、特に思い出に残っていることは、やはり亡き総長 藤田啓介先生が塾頭をされていた七栗生薬研究塾（三重県久居市）で、昼夜を問わず教育・研究を直接ご指導賜わり、「情熱と感激性」に富んだ総長先生のお姿を見ながら、勤務できたことは小生にとってとても良い人生経験になりました。

学生時代の卒業研究で、研究塾でご指導を賜った関係から、研究塾に出入りを許され、藤田先生に卒業式の前日までご指導を賜り、卒業式当日には卒業証書と理事長賞を拝受し、その翌日から勤務をしたのを今でも走馬灯のように覚えています。

藤田先生からは常日頃、「私学人としての誇りを持って」、「何事にも最後の1秒までベストを尽くし諦めるな。負けたと言わない限り負けではない」、「苦しい時には先ずは食べること」

・・・と話され、励まして下さいました。更に、藤田先生から学生時代に「さりげなく 自己犠牲を行う 君にこそ幸いあれ」（昭和52年12月クリスマスイブ）と色紙に書いていただきました。これは小生にとって生涯の宝「座右の銘」であり、今も小生の戒めの言葉として、日々大切にしています。

総長先生は、フジタホール2000を設計・建設される際、豊明校地を濃尾平野で一番高い丘にそびえる「フジタ・アクロポリス」と呼ばれ、その拠点がフジタホール2000であり、教育、研究、診療、公演等に、広く活用することを願っておられました。このフジタホール 2000の建築記録は、映画「聴感啓示」として製作され、藤田先生が自らシナリオを書かれ、製作・出演もされています。音声は俳優の仲代達矢氏が担当されていますので、興味がある方は大学図書館か藤田学園同窓会事務局でご確認ください。

最後に、藤田学園が益々ご発展し、卒業生の皆様には母校の誇りを持ってご活躍されますことを、心からお祈り申し上げます。

我が母校“ふじた”



元藤田医科大学
産婦人科学病院
特命教授
廣田 穰

私は、1972年名古屋保健衛生大学医学部入学の1回生です。1978年に藤田保健衛生大学医学部産婦人科学教室に入局し、2020年4月から岡崎医療センター婦人科に異動、2023年3月に同医療センターを退職しました。医学部入学以来、丁度、50年の節目ということになります。この間、お世話になりました先輩諸兄・諸姉に改めて御礼申し上げます。

医学部開設当初は「新設医大（今は死語）」と揶揄された時代もありましたが、多くの教職員の尽力と卒業生の活躍により、この50年間で本学は大きな変貌を遂げ社会的にも高い評価を得て、医療系総合大学としての地位は揺るぎないものになっています。

現在私は、東三河を中心に医療に携わっており、患者さんとの会話の中で、「ああ、あの藤田さんね」、「私の家族/知人/隣人がお世話になりました」といった話をよく耳にします。知名度が低かった1980年前後を振り返ると隔世

の感があり、そのような時には誇らしくもあり内奥で欣喜雀躍しています。

これからも「ふじたさん」として人々に信頼され慕われるような、そして学園内で働く人が「ふじたの職員」として胸を張って躬行できる医療系総合大学として益々飛躍発展することを祈念しています。



我慢人形・祈り人形

同窓会からのお知らせと総会報告

専門学院部会

専門学院同窓会は藤田学園の理念に従って閉校以前より学園と共に歩んでいます。

令和5年度の総会にて理事候補 小久保正博(10回生)・古川博(14回生)代議員候補森田秀夫(12回生)・井出富彦(19回生)・山田昇(24回生)を藤田学園同窓会役員として推薦致しました。選出されました役員一同、皆様よりのご意見・ご要望をお伺いし会員相互の親睦と互助を目標に企画運営致します。

医学技術専門学院同窓会会長 小久保 正博

藤医会

藤医会は正式名称を藤田医科大学医学部同窓会といい、本学医学部の卒業生(正会員)と在学生(学生会員)により運営をされている一般社団法人です。1978年、第一回卒業生の誕生と同時に創設されました。その目的は「会員相互の親睦と交流を図り、母校の発展と医学、医療の振興に貢献すること」にあります。卒業して母校を離れても、すべての会員がいつまでも交流を続けることができるよう、会員名簿を作成して卒業生全員に無料で配布してきましたが、近年の個人情報への厳しい状況を鑑み現在は中止をしています。そのほか、年二回の機関紙の発行や教育/学術講演会の企画、開催などを通じて卒業生や在学生間の情報交換を促進し、それぞれの親睦を深めることにもつとめています。現在は6代目の執行部でバランスも良く、特に支部会の訪問に力を注いでいます。今後は母校への支援活動をより充実させ、さらには社会貢献をも視野に入れた活動を展開してゆく予定です。

藤医会第6代会長 黒田 誠

カズモス部会

カズモス同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、学園同窓会活動にご理解ご支援を賜りありがとうございます。

今年になり、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行したため、カズモス同窓会は、同窓会活動を再開し、来年の3月に同窓会総会並びに同窓会親睦会を行う予定しております。

詳しい日時・場所は、藤田学園同窓会HP(<http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/>)に掲載しますので、ご覧になって是非お越し下さるようお願い申し上げます。

出席の有無や近況報告、同窓会についてのご要望等は、下記メールアドレスまでお送りしていただきたく存じます。

最後に、同窓生皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ、お知らせとします。

カズモス同窓会会長 兼田道男

E-mail: nursing-net@onyx.ocn.ne.jp

短期大学部会

藤田医科大学短期大学同窓会では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が感染症法(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)の五類感染症に分類されたことから、今年是对面での総会及び懇親会開催を計画していました。しかし、感染患者の増加による第9波とインフルエンザ流行が懸念されることから、昨年と同様に役員への持回り審議として、2022年度活動・会計・監査報告と、2023年度の予算案・役員案及びその他の事項について10月中旬にご承認をしていただきましたので、報告させていただきます。

役員につきましては、長年本同窓会でご活躍いただきました、顧問の瀬川善樹前会長と寺平良治前会長、会計監査の原進氏と浅野妙子氏の4名がご退任されました。この紙面をお借りして、ご苦勞と感謝の気持ちを込めてお礼申し上げます。また、新役員には大学病院検査室より4名が加わり、若返りを図りました。詳細は短大同窓会ホームページに掲載してあります。

本同窓会総会も対面での開催は、新型コロナウイルス感染症拡大により、ほぼ4年間の中止状態です。しかし、ご承知の通り5月8日から第5類に位置づけられ、日常生活や経済活動等もコロナ前の環境に近づいているように思います。昨年も書きましたが、卒業生の皆様には、自粛していた各同窓会の開催を、コロナに対する感染リスクを最小限に対応した上で、卒業生同志が親しく、楽しく共に語り合える場となる貴重な会を企画していただきたいと思います。そして、開催された折には、是非とも短期大学同窓会ホームページに、ご投稿をお願い申し上げます。

最後に、短期大学同窓会の皆様には、ご健勝であられますと共に、今後とも短期大学同窓会にご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

短期大学同窓会会長 川井 薫

看護専門学校部会

同窓生の皆さまには3年余りになる新型コロナウイルス感染症の流行のさなか、臨床現場での献身的な活動に感謝申し上げます。看護専門学校同窓会部会は、藤田学園同窓会の事業計画に協働した活動をしています。看護専門学校の同窓生の皆さまが同窓会活動を計画される際は、藤田学園同窓会から支援が得られますので是非藤田学園同窓会にご相談ください。同窓生の皆さまには藤田学園同窓会のホームページより活動状況をご確認ください。また、住所等の変更がある場合は、ホームページから届出いただくとともに同窓生にもお声がけいただきますようお願い申し上げます。

看護専門学校同窓会会長 小島登美香
看護専門学校の卒業証明書等の発行を希望する方は大学事務局にお申し出ください。

申し出先: 藤田医科大学事務局・総務部・学事課

同窓会からのお知らせ

フジタEXOP2024と2024ホームカミングデーの開催

新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、4年ぶりに2023藤田学園ホームカミングデー(HCD)懇親会が開催されました。2023年10月28日(土)、275名の卒業生の皆様にご参加いただきました。学生時代を懐かしみ笑顔のあふれる楽しい2時間でした。また、昼間にはフジタEXPO2023も同時開催され、学園を訪れていただいた卒業生68名には懐かしくそして新しい学園を見学していただきました。

来年も2024藤田学園ホームカミングデーを2024年10月26日(土)に開催いたします。詳細が確定しましたら、ホームページその他でご案内いたします。2024年は1974年、1984年、1994年の卒業生がそれぞれ卒業50周年、40周年、30周年を迎えられます。たくさんの卒業生にご参加いただくようお待ちしております。詳細は藤田学園同窓会ホームページよりご案内いたします。

藤田学園同窓会ではアセンブリ精神に則り、卒業生の活動を様々な形で支援しています。例えば1.学会などにおける親睦会支援、2.支部設立支援、支部総会・懇親会支援、3.県人会開催の支援、4.学会、学術集会、研修会、研究会の支援、5.会員の研究補助、6.県人会、クラス会など開催のための名簿と宛名シールの提供、7.理事会において認められた同窓会活動(事務局へご相談ください)などです。申込書を同窓会ホームページよりダウンロードし、Faxまたはeメールにてお申し込みください。

〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会事務局

電話・ファックス: 0562-93-5674

e-mail: dosokai@fujita-hu.ac.jp

<http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/>



藤田学園同窓会

第44回 一般社団法人藤田学園同窓会 総会議事録

日 時：2023年11月11日(土)15：00～16：10
場 所：藤田医科大学3号館1F101 講義室
代議員：38名(内委任状19名)／56名
理 事：13名／21名
監 事：1名／3名
顧 問：1名
事務局：1名

開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し黙祷が捧げられた。

- I. 開会の辞
II. 会長挨拶
III. 議長選出
定款19条に則り、副会長の小島氏が議長に選任された。
IV. 代議員紹介
各分会から選出された2019年度～2022年度代議員が紹介された。

V. 議事
第1号議案：2022年度事業報告
2022年度において行われた事業が報告された。
第2号議案：2022年度決算報告
2022年度会計報告が行われ、満場一致で承認された。

第3号議案：2022年度監査報告
2022年度監査報告が行われ、満場一致で承認された。

第4号議案：藤田学園同窓会定款と細則の改定
1) 社員総会の招集と事業年度及び会計年度の改定について
第5章 社員総会 (招 集)
第17条 当法人の定時社員総会は、毎事業年度末日の翌日から3か月以内に招集し、臨時社員総会は、必要に応じて招集する。社員総会は、代議員に

よって構成する。
第7章 資産及び会計 (事業年度)
第31条 当法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
定款の改定について採決の結果、満場一致で承認された。

2) 代議員の選出(定員)と附則の改定について
第3章 会員及び代議員 (代議員の選出)
第21条 代議員の総数は50名以内とする。
2. 理事会は、あらかじめ各分会の会員数と事情を考慮して代議員選出数を割り当てる。
3. 1部会の代議員数が代議員総数の過半数を超えることがないように調整する。但し、各分会への最低割当数は2名とする。

附 則
6. この改定細則は、令和5年11月11日から施行する。
細則の改定について採決の結果、満場一致で承認された。
第5号議案：2022年度事業計画案
2023年度事業計画案が提案され、満場一致で承認された。
第6号議案：2023年度予算案
2023年度予算が提案され、満場一致で承認された。

第7号議案：代議員、理事及び役員、顧問、顧問、事務局長について

理事の全員及び監事全員と顧問、事務局長が本定時総会をもって任期満了となることから議長は次の者をそれぞれ指名し議場に諮ったところ、満場一致によりこれを選任することを可決確定した。

理事 松山裕宇、西井一宏、小島登美香、長谷川勝俊、黒田誠、梅村慶子、東本美、古川博、加藤政雄、大槻真嗣、川井薫、松井俊和、小久保正博、兼田道男、柘植宏憲、杉浦将人、小野寅雄、坂田裕介、山田晃司、亀井哲也、山田将之
(以上21名重任)

理事 水谷名穂美 (以上1名新任)
監事 内藤健晴、山内理充
顧問 濱子二治
事務局長 丸田一皓

第8号議案：質疑応答
藤田学園同窓会における理事と代議員の兼務について質疑があった。
会長より理事と代議員は独立しており、兼務者はいないことが回答された。

VI. 議長解任
VII. 閉会の辞

2023年度～2024年度 理事並びに担当委員会名簿

	役職名	卒年	所属分会	氏 名	担当委員会
1	会 長	1983	藤医会	松山 裕宇	統 括
2	副会長	1991	藤衛会	西井 一宏	統括補佐
3	副会長	1980	看護専学	小島登美香	統括補佐
4	専務理事	1983	短期大学	長谷川勝俊	会務執行統括(事業・HCD)
5	常務理事	1978	藤医会	黒田 誠	会務執行補佐(会員育成)
6	常務理事	1992	藤衛会	梅村 慶子	会務執行補佐(会計)
7	理事	1984	看護専学	東 本美	総務(書記)
8	〃	1982	医技専門学院	古川 博	事 業・HCD
9	〃	1983	短期大学	加藤 政雄	事 業・HCD
10	〃	1988	藤医会	大槻 真嗣	事 業・HCD
11	〃	2003	看護専学	水谷名穂美	事 業・HCD
12	〃	1979	短期大学	川井 薫	学 術
13	〃	1978	藤医会	松井 俊和	学 術
14	〃	1978	医技専門学院	小久保正博	学 術
15	〃	1988	カズモス	兼田 道男	学 術
16	〃	1989	カズモス	柘植 宏憲	会員育成
17	〃	2003	藤衛会	杉浦 将人	会員育成
18	〃	1992	看護専学	小野 寅雄	名 簿
19	〃	1999	短期大学	坂田 裕介	名 簿
20	〃	1992	藤衛会	山田 晃司	機関誌
21	〃	1996	藤衛会	亀井 哲也	機関誌
22	〃	1998	リハビリ専学	山田 将之	機関誌

任期：2023年11月11日～2025年6月総会日

2023年度～2026年度 監事名簿

	役職名	卒年	所属	氏 名
1	監 事	1978	藤医会	内藤 健晴
2	監 事	1985	藤衛会	山内 理充

任期：2023年11月11日～2027年6月総会日

名誉会長・顧問・事務局長名簿

役職名	卒年	所属	氏 名
名誉会長	1979	藤医会	近松 均
顧 問	1979	藤衛会	濱子 二治
事務局長	1972	藤衛会	丸田 一皓

名誉会長の任期：終身
顧問の任期：2023年11月11日～2025年6月総会日
事務局長の任期：2023年11月11日～2025年6月総会日

2023年度～2026年度 代議員名簿

所属分会	氏 名 (卒年)
看 護 専門学校	新海 美恵(1991)、野中 英雄(2000)、依田 喬士(2002) 河村 愛(2006)、村松 恵多(2007)、種中 祥子(2007) 6名
短期大学	井平 勝(1983)、須藤 健助(1990)、刑部 恵介(1991) 堀 秀生(1997)、藤垣 英嗣(1998)、杉山 博子(2000) 澤田 卓希(2007)、中尾 倫子(2002)、櫻井 昌代(1987) 長瀧 和子(1992) 10名
医学技術 専門学院	森田 秀夫(1980)、井手 富彦(1987)、山田 晃(1993) 3名
藤衛会	市野 直浩(1985)、杉本 恵子(1992)、東本 祐紀(2007) 安藤 嘉崇(2012)、藤井 亮輔(2013)、土井 洋輝(2016) 坪井 良樹(2016)、平山 将也(2018)、吉川 英治(1985) 中村小百合(1988)、山崎 富善(1995)、福本由美子(1995) 倉田 亮子(1999)、大橋 正男(1997)、小林 正尚(2002) 高野 一輝(2012)、土橋 和太(2011)、太田 皓文(2011) 竹内 大智(2016)、兵藤 友和(2014) 20名
藤医会	溝口 良順(1979)、安倍 雅人(1983)、根木 浩路(1983) 外山 宏(1984)、吉川 哲史(1986)、篠崎 仁史(1992) 6名
カズモス	松本 敏明(1988)、竹内 辰之(1989) 2名
リハビリ 専門学校	杉山 智久(1995)、横田 元実(1996) 2名 49名

任期：2023年11月11日～2027年6月総会日

2024年度 入学試験スケジュール

藤田医科大学 大学院

研究科名称	課程	試験区分	募集人員	出願期間(※切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科	医学専攻 (博士課程)	第一次募集	52名	7月 5日(水)から7月14日(金)まで	8月 2日(水)	8月25日(金)	本学
		第二次募集		1月10日(水)から1月19日(金)まで	2月 1日(木)	2月22日(木)	本学
	医科学専攻 (修士課程)	第一次募集	5名	7月 5日(水)から7月14日(金)まで	8月 2日(水)	8月25日(金)	本学
		第二次募集		1月10日(水)から1月19日(金)まで	2月 1日(木)	2月22日(木)	本学
	病院経営学・ 管理学専攻 <専門職大学院>	第一次募集	10名	7月 5日(水)～7月14日(金)	8月12日(土)	8月25日(金)	本学
		第二次募集※		1月10日(水)～1月19日(金)	2月 3日(土)	2月22日(木)	本学
医療科学研究科	医療科学専攻 (博士後期課程)	第一次募集	4名	8月21日(月)から9月 1日(金)まで	9月11日(月)	9月19日(火)	本学
		第二次募集		1月29日(月)から2月 9日(金)まで	2月19日(月)	2月26日(月)	本学
	医療科学専攻 (修士課程)	第一次募集	25名	8月21日(月)から9月 1日(金)まで	9月11日(月)	9月19日(火)	本学
		第二次募集		1月29日(月)から2月 9日(金)まで	2月19日(月)	2月26日(月)	本学
保健学研究科	保健学専攻 (博士後期課程)	第一次募集	6名	8月21日(月)から9月 1日(金)まで	9月11日(月)	9月19日(火)	本学
		第二次募集		1月29日(月)から2月 9日(金)まで	2月19日(月)	2月26日(月)	本学
	保健学専攻 (修士課程)	第一次募集	25名	8月21日(月)から9月 1日(金)まで	9月11日(月)	9月19日(火)	本学
		第二次募集		1月29日(月)から2月 9日(金)まで	2月19日(月)	2月26日(月)	本学

※第一次募集で定員が充たされた場合は、第二次募集を行わないことがあります。

藤田医科大学 医学部

学科名称(定員)	試験区分		募集人員	Web出願期間【書類提出期限】	試験日	合格発表日	試験会場
医学科(120名)	ふじた未来入試		高3枠と独創一理枠 合わせて 12名	10月2日(月)から 11月2日(木)まで 【11月6日(月)必着】	一次：11月12日(日)	11月16日(木)	本学
					二次：11月19日(日)	11月22日(水)	本学
	一般入試	前期	一般枠：78名 地域枠： 5名	12月11日(月)から 1月26日(金)まで 【 1月29日(月)必着】	学科： 2月 4日(日)	2月 8日(木)	東京・名古屋 ・大阪
		後期	一般枠： 5名 地域枠： 5名	1月23日(火)から 2月27日(火)まで 【 2月28日(水)必着】	面接： 2月12日(月) または 2月13日(火)※	2月14日(水)	本学
	共通テスト 利用入試	前期	10名	12月11日(月)から 1月12日(金)まで 【 1月15日(月)必着】	学科： 3月 3日(日)	3月 7日(木)	東京・名古屋
					面接： 3月14日(木)	3月15日(金)	本学
		後期	5名	1月23日(火)から 2月27日(火)まで 【 2月28日(水)必着】	一次：大学入学共通テスト 二次： 2月12日(月) または 2月13日(火)※	2月14日(水)	本学
					一次：大学入学共通テスト 二次： 3月14日(木)	3月15日(金)	本学

* 出願時に希望する日を選択してください。出願後の面接試験日の変更は認めません。

藤田医科大学 医療科学部・保健衛生学部

■ 募集人員・入試日程

学 部	学 科	定員	総合型選抜	推薦入試			一般入試		共通テスト利用入試		共通テスト プラス入試
			藤田フロン ティア入試	一般公募制 【専願】		一般公募制 【併願】	前 期 ^{注1}	後 期	前 期	後 期 ^{注3}	
医療科学部	医療検査学科	140名	10名	30名		15名	60名	—	15名	5名	5名
	放射線学科	90名	5名	20名		10名	35名	—	10名	5名	5名
学 部	学 科	定員	ふじた独創 入試A	ふじた独創 入試B	一般公募制 【専願】	一般公募制 【併願】	前 期 ^{注1}	後 期	前 期	後 期 ^{注3}	共通テスト プラス入試
保健衛生学部	看護学科	135名	4名	4名	35名 ^{注2}	—	65名	5名	14名	3名	5名
	リハビリテーション学科 先進理学療法コース	115名	5名	5名	10名 ^{注3}	—	60名	6名	13名	3名	3名
	リハビリテーション学科 先進作業療法コース		3名	2名	5名 ^{注4}	—					

注1 【A日程】【B日程】ともに合わせた人数

注2 一般公募制推薦【専願】、専門高校(看護)推薦若干名、社会人自己推薦若干名、指定校推薦・MOU指定校15名程度を合わせた人数

注3 一般公募制推薦【専願】、一般公募制推薦【併願】若干名、指定校推薦、MOU指定校を合わせた人数

注4 一般公募制推薦【専願】、一般公募制推薦【併願】若干名、一般公募制推薦【併願】若干名、指定校推薦を合わせた人数

試験区分		学部	出願期間(※切必着)	試験日	合格発表日	試験会場	
藤田フロンティア入試(総合型選抜)		医療科学部	9月16日(土)から10月 5日(木)まで	10月15日(日)	11月 1日(水)	本学	
ふじた独創入試(総合型選抜)		保健衛生学部					
推薦入試・特別入試		医療科学部／保健衛生学部	11月 1日(水)から11月13日(月)まで	11月18日(土)	12月 1日(金)	本学	
一般入試(前期)	A日程	医療科学部	12月18日(月)から 1月24日(水)まで	2月 1日(木)	2月 7日(水)	[A日程] 本学(放射線学科・リハビリテーション学科)、名古屋(医療検査学科・看護学科)、東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡(全学科) [B日程] 本学	
		保健衛生学部	1月 4日(木)から 1月24日(水)まで	2月 1日(木)	2月 7日(水)		
	B日程	医療科学部	12月18日(月)から 1月29日(月)まで	2月 8日(木)	2月14日(水)		本学
		保健衛生学部	1月 4日(木)から 1月29日(月)まで	2月 8日(木)	2月14日(水)		
一般入試(後期)		医療科学部					
		保健衛生学部	2月 5日(月)から 2月21日(水)まで	2月29日(木)	3月 7日(木)	本学	
共通テスト利用入試(前期)		医療科学部	12月18日(月)から 1月29日(月)まで	大学入学共通テスト 1月13日(土) ・14日(日)	2月14日(水)		
		保健衛生学部	1月 4日(木)から 1月29日(月)まで		2月14日(水)		
共通テスト利用入試(後期)		医療科学部	2月19日(月)から 3月12日(火)まで		3月16日(土)		
		保健衛生学部	2月27日(火)から 3月 8日(金)まで		3月15日(金)		
共通テストプラス入試		医療科学部	12月18日(月)から 1月29日(月)まで	一般入試(前期) [A日程][B日程] 大学入学共通テスト	2月14日(水)		
		保健衛生学部	1月 4日(木)から 1月29日(月)まで	一般入試(前期) [A日程][B日程] 大学入学共通テスト	2月14日(水)		

入学試験に関する
問い合わせ先

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98
藤田医科大学大学院
医学研究科 TEL 0562-93-2898
保健学研究科 TEL 0562-93-2504・9080

URL <https://www.fujita-hu.ac.jp/>
藤田医科大学
医学部 TEL 0562-93-2493
医療科学部・保健衛生学部 TEL 0562-93-9959